



# 春の香りに誘われて 花の王国にやって来た

こんにちは、あずまです。4月初め、健一さんと館林を訪れました。こは、昨年の11月にオープンした「製粉ミュージアム」の本館です。1世紀以上にわたる日清製粉の歩みを、展示された品々や写真などの貴重な資料から感じ取ることができました。

(MAPの㊤)

## 今回の登場人物



伊勢崎線の『館林駅』へは、北千住から特急「りょうもう」で約50分。開業は1907年。佐野線と小泉線の起点駅でもあり、「関東の駅百選」にも選ばれています。「つつじまつり」の時期はとくに賑わいます。

## 館林・茂林寺前

(たてばやし・もりんじまえ)

館林は、4月〜5月にかけて「世界一華やかな街になる」といわれています。桜に始まる春の花前線は、群馬県立つつじが岡公園のツツジへと続きます。1万株・50余種のツツジが赤、白、ピンクと美しく咲き誇る様子は、まさに館林のシンボル。一方、「ザ・トレジャーガーデン館林」では芝桜が開花し、ローズガーデンの華麗な花々は5月から楽しめます。

おっとその前に、館林駅西口が大きく様変わり。世界的にも貴重なミュージアムが誕生したのです。





日本庭園もありました。緑の芝が広がり、池には鯉が泳いでいました。春には本館前の染井吉野が満開になります。歴史を語る本館と製粉のいまをPRする新館が日本庭園の中に静かに佇む、まさに上質の憩い空間が広がっています。(MAPの(A))



「製粉ミュージアム」は館林駅西口を出てすぐ。新館の展示室には、小麦を細かく砕くロール機や小麦の粒を大きき別に分けるシフターなどの機械を展示。小麦粉を使った料理の秘密を、クイズ形式で学べるコーナーも(MAPの(A))



ここは「向井千秋記念子ども科学館」です。プラネタリウムや天体観測室もあります。これは人気の「ムーンウォーカー」。月の重力を疑似体験できますよ。お土産に宇宙食をいくつか買いました。(MAPの(C))



東口に出て「花山うどん」という1894年創業のお店で、館林名物「分福茶釜の釜玉うどん」をランチに。絶品のお味でした! このお店のほか、6店で味わえます。(MAPの(B))

**製粉ミュージアムが  
館林駅西口にオープン**

円いアーチの時計塔で親しまれてきた館林駅。その玄関はこれまで東口のみでしたが、駅舎全体のリニューアルによって橋上駅舎と東西自由通路が完成し、「関東の駅百選」の旧駅舎の姿を残したまま、新たに館林駅西口が誕生しました。

西口開設に伴って現在、駅前広場が急ピッチで整備されていますが、それに先駆けて昨年11月にオープンしたのが、製粉の歴史と未来へ繋がるテクノロジを情報発信する「製粉ミュージアム」。

実は館林は、日清製粉グループ発祥の地(明治33年創業時は館林製粉)。明治40年に館林駅が開業すると、原料や製品の大量輸送が可能となり、その後は国内屈指の製粉会社として、また地元の基幹産業として、館林の近代化に大きく貢献してきました。その1世紀を超えた食文化の歴史と技術、熱い思いを発信する施設——それが製粉ミュージアムなのです。

エントランスは新館。小麦を粉砕するロール機や、サイズ別に小麦の粒を振り分けけるシフターを新旧並べて展示し、製粉の最先端技術をパノラマシアターで分かりやすく見せてくれます。

明治の創業時の工場を解体・移築した建物であった本館には、日清製粉の歴史や、製粉に情熱をかけた歴代経営者ゆかりの写真や遺品を展示。さらに敷地の大半は広大な芝生の回遊庭園で、池の飛び石に使われているのは、明治時代にフランスから運ばれてきた石臼です。

春には敷地の2本の大きなサクラの樹が満開に。館林駅西口の新しい花見スポットです。





分福茶釜の物語で有名な「茂林寺」です。大きなタヌキの像が参道の両側に林立しています。茶釜など寺宝も拝観できます(有料)。そばのお土産屋さんにも、タヌキの置物がいっぱいです。(MAPの⑤)



「つつじが岡公園」まで足を延ばしました。もうすぐ「つつじまつり」。世界有数といわれる見事なツツジが咲き誇ります。鶴生田川の桜並木と鯉のぼりを眺めながら、駅までのんびり戻り、電車でお隣の「茂林寺前駅」へ。(MAPの⑥)



5月になれば1200株のバラが開花します。「ローズガーデンエリア」では7つのシーンと7つのバラの物語が展開されます。園内には教会やフレンチレストランもあって、花々に囲まれたウェディングが人気だそうですよ。(MAPの⑦)



ここは「ザトレジャーガーデン館林」。約8万㎡の園内にある「芝桜のガーデン」では、25万株の赤・白・ピンクの芝桜が見事に咲き誇っていました。運が良ければ、桜と芝桜を同時に鑑賞することができますよ。(MAPの⑧)

## 芝桜とバラが魅了する ザ・トレジャーガーデン館林

館林駅東口から足を延ばせば、水鳥が遊ぶ城沼が広がります。その南岸一帯が「つつじが岡公園」。江戸時代からツツジの名所として知られ、樹齢800年のヤマツツジをはじめ、1万株のツツジが城沼のほとりを絢爛豪華に彩ります。その50余品種の中には館林で開発された新品種や、館林出身の向井千秋さんがスペースシャトルに持ち込んだ種子を育てた「宇宙ツツジ」などもあり。

またこの時期、城沼に流れ込む鶴生田川には数千匹の鯉のぼりが泳ぎ、城沼周辺には「向井千秋記念子ども科学館」や「田山花袋記念文学館」など、見どころいっぱい입니다。

さて、館林駅から電車で茂林寺前駅へ。「ぶんぶく茶釜」で有名な茂林寺の境内にずらり並ぶタヌキ像たち。この季節には兜をかぶり、鯉のぼりを手にして参拝者を出迎えています。

茂林寺から遊歩道を伝っていくと、花の楽園「ザ・トレジャーガーデン館林」に到着。「芝桜のガーデン」では、4月上旬から25万株の芝桜が開花して、大地が鮮やかなピンクに彩られます。それに対比して「青のガーデン」では、青系の芝桜や可憐なネモフィラなど22万株の花々が大海原の景観を演出。見渡す限りの花の絨毯は、そこに立っているだけで夢の中にいるようです。

そしてもうひとつの主役はバラ。水路脇を歩いて花を堪能する「ロングボーダーガーデン」とブルーローズが美しい「水辺のローズガーデン」には、さまざまな意匠で心を癒やす7つのシーンと7つのバラの物語が展開されています。





### 館林・茂林寺前データファイル

〈製粉ミュージアム〉・・・●交通=館林駅西口すぐ ●開館時間=10:00～16:30(入館は16:00まで) ●休館日=月曜(祝日・振替休日の場合は翌日)、年末年始など ●入館料=大人200円/子ども(小・中学生)100円 ☎0276-71-2000

〈ザ・トレジャーガーデン館林〉・・・●交通=茂林寺前駅徒歩15分 ●開館期間=春季(4月～6月)・・・無休、夏季(7月～9月上旬)・・・祝日を除く月・火定休、秋季(9月中旬～11月)・・・無休、冬季(12月～3月)・・・祝日を除く月・火定休 \*年末年始休園 ●開園時間=9:00～17:00(冬季は9:30～16:30)\*入園は閉園時間の30分前まで ●入園料=開花状況に合わせた変動制(500円～1500円を予定) ●芝桜フェスタ=4/6(土)～5/6(祝) ☎0276-55-0750

〈向井千秋記念子ども科学館〉・・・●交通=館林駅徒歩20分 ●開館時間=9:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日=月曜(休日の場合、翌日休館)、国民の祝日の翌日(土・日を除く)、年末年始、設備点検期間 ●入館料=おとな(高校生以上)310円/子ども(中学生以下)無料 \*プラネタリウム観覧料は、おとな520円/子ども210円/幼児無料 ☎0276-75-1515

〈茂林寺〉・・・●交通=茂林寺前駅徒歩7分 ●宝物拝観時間=9:00～16:00 ●宝物拝観料=おとな300円/子ども150円 ☎0276-72-1514

〈花山うどん〉・・・●交通=館林駅東口徒歩1分 ●営業時間=11:00～15:30(土・祝日は～15:00)\*麺がなくなり次第終了 ●定休日=日曜、最終土曜 \*臨時休業、臨時営業もあり ☎0276-74-0178

